

平成 25 年度 主要建設資材需要見通しの概要と価格動向

1. はじめに

建設資材の需要動向は建設投資額と密接な関連があり、建設投資額の増加に伴い全般的に増加傾向にある。平成 25 年 6 月に国土交通省から発表された「平成 25 年度主要建設資材需要見通し」と建設資材の価格動向についてその概要を報告する。

2. 主要建設資材需要見通し

平成 25 年度の建設投資額は、前年度比 11.2% 増の 49 兆 9,500 億円となる見通しである。このうち政府投資は 16.4% 増の 21 兆 9,600 億円、民間投資は 7.5% 増の 27 兆 9,900 億円となる見通しである。

平成 25 年度の主要建設資材の需要見通しは、セメント、生コンクリート、骨材、木材、普通鋼材、アスファルトなど全ての材料で増加する見通しである。

下記に、主要建設資材の需要実績と今後の見通しを示す(図-1)。

平成 24 年度の建設投資額は、対前年度比では 7.2% 増の 44 兆 9,000 億円となる見込みである。このうち政府投資は前年度比 9.6% 増の 18 兆 8,600 億円、民間投資は、前年度比 5.5% 増の 26 兆 400 億円と見込まれる。その内訳は、建築部門が 4.2% 増の 23 兆 4,200 億円、土木部門は 10.7% 増の 21 兆 4,800 億円となる見込みであり、これに伴い、主要建設資材の需要量実績も、前年度に引き続き全ての主要資材の需要量が増加した。

[セメント、生コンクリート]

平成 25 年度の需要見通しは、セメントが対前年度比 12.2% 増加し 5,000 万 t、生コンクリートが対前年度比 12.9% 増加の 10,400 万 m³ と見通される。また、平成 24 年度の需要実績は、セメントは前年度比 4.5% 増加の 4,458 万 t、生コンクリートは前年度比 4.7% 増加の 9,210 万 m³ であった。

[骨材、砕石]

平成 25 年度の需要見通しは、骨材が対前年度比 12.8% 増加の 28,000 万 m³、砕石が対前年度比 12.6% 増加の 13,900 万 m³ と見通される。また、平成 24 年度の需要実績は、骨材が前年度比 6.4% 増加の 24,813 万 m³、砕石は前年度比 5.5% 増加の 12,342 万 m³ と推計される。

[木材]

平成 25 年度の木材の需要見通しは、前年度比 11.9% 増加の 1,050 万 m³ と見通される。

また、平成 24 年度の需要実績は、前年度比 1.8% 増加の 938 万 m³ であった。ただし、平成 24 年度実績には、東日本大震災の影響により、平成 23 年 4 月～6 月の岩手県、宮城県及び福島県分の出荷量は含まれていない。

[普通鋼材、形鋼、小型棒鋼]

平成 25 年度の需要見通しは、普通鋼材が対前年度比 12.1% 増加の 2,310 万 t、うち形鋼が 8.9% 増加の 470 万 t、小型棒鋼が 11.7% 増加の 920 万 t と見通される。また、平成 24 年度の需要実績は、普通鋼材が前年度比 7.1% 増加の 2,061 万 t、うち形鋼は 8.6% 増加の 431 万 t、小型棒鋼は 6.1% 増加の 823 万 t であった。

[アスファルト]

平成 25 年度の需要見通しは、アスファルトは対前年度比 8.6% 増加の 170 万 t と見通される。また、平成 24 年度の需要実績は、前年度比 10.0% 減少 157 万 t であった。

3. 主要建設資材の需要量年度別推移

次に、図-2 に主要建設資材需要量の年度別推移を示す。図が示すように、ほとんどの主要建設資材は、バブル最盛期をピークに、その後は急激に減少し、品目により多少の差はあるが全ての品目で

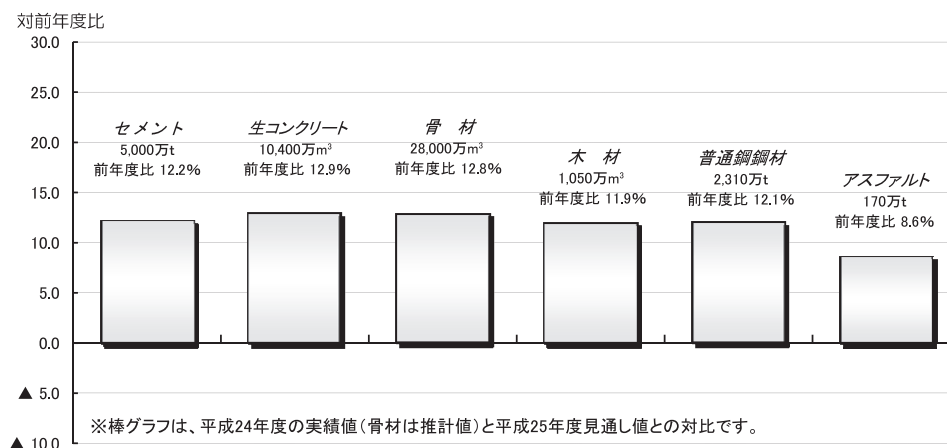
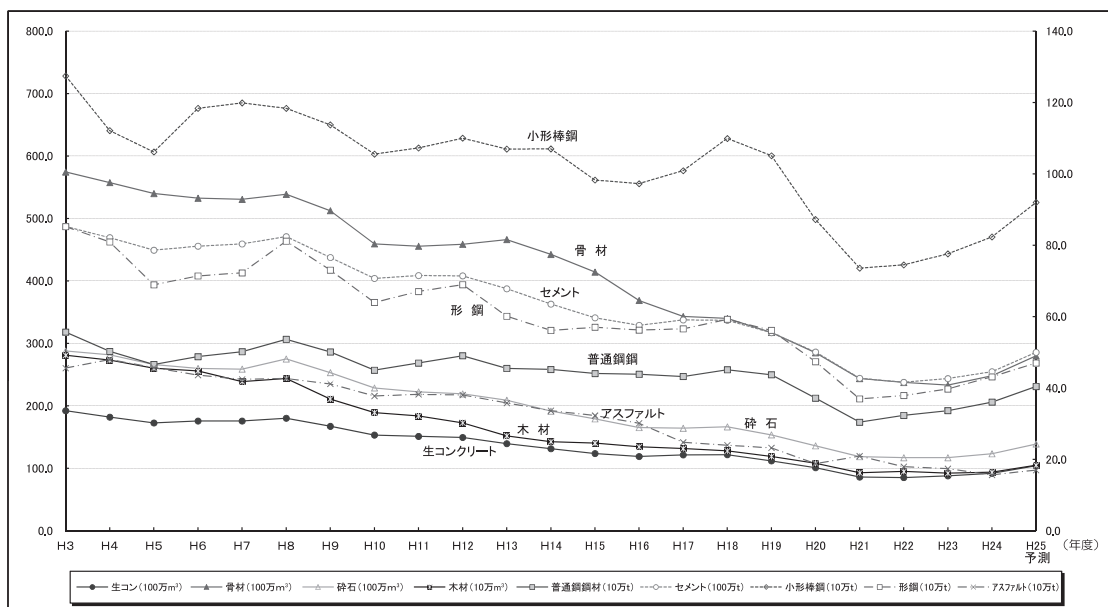


図-1 平成 25 年度主要建設資材の需要見通し

表-1 最近の主要建設資材需要の変遷

| 資材名称 | 単位 | 需要量 | | | 伸び率 | | |
|---------|-----------------|-----------------|----------|----------|---------|---------|-------|
| | | H23年度実績値 | H24年度実績値 | H25年度見通し | 24 / 23 | 25 / 24 | |
| セメント | 万t | 4,265 | 4,458 | 5,000 | 4.5% | 12.2% | |
| 生コンクリート | 万m ³ | 8,796 | 9,210 | 10,400 | 4.7% | 12.9% | |
| 骨材 | 万m ³ | 23,313 | 24,813 | 28,000 | 6.4% | 12.8% | |
| | 砕石 | 万m ³ | 11,700 | 12,342 | 13,900 | 5.5% | 12.6% |
| 木材 | 万m ³ | 922 | 938 | 1,050 | 1.8% | 11.9% | |
| 普通鋼鋼材 | 万t | 1,924 | 2,061 | 2,310 | 7.1% | 12.1% | |
| | 形鋼 | 万t | 397 | 431 | 470 | 8.6% | 8.9% |
| | 小形棒鋼 | 万t | 776 | 823 | 920 | 6.1% | 11.7% |
| アスファルト | 万t | 174 | 157 | 170 | -10.0% | 8.6% | |

- (注1) 本見通しは、「平成25年度建設投資見通し(国土交通省総合政策局 情報政策課建設統計室 平成25年6月28日公表)」をもとに推計したものである。
- (注2) 各資材の対象は、セメントは〔内需量〕,生コンクリート,砕石は〔出荷量〕,木材は〔製材品出荷量〕,骨材は〔供給量〕,普通鋼鋼材,形鋼は〔建設向け受注量〕,小形棒鋼は〔建設向け出荷量〕,アスファルトは〔建設向け等内需量〕。
- (注3) 本見通しの有効数字は、セメントは〔100万t〕,生コンクリート,骨材及び砕石は〔100万m³〕,木材は〔25万m³〕,普通鋼鋼材,形鋼及び小形棒鋼は〔10万t〕,アスファルトは〔5万t〕。
- (注4) その他の資材については実績値。
ただし、木材のH23年度実績値には、東日本大震災の影響により、平成23年4月～6月の岩手県、宮城県及び福島県分の出荷量が含まれていない。
平成24年度の需要量のうち、骨材、砕石については推計値を使用しているため、見込み値(イタリック体)。



(注) グラフの見方・実線(生コンクリート、骨材、砕石、木材、普通鋼鋼材)については左軸、点線(セメント、小形棒鋼、形鋼、アスファルト)については右軸を参照。
・平成24年度の需要量は、骨材、砕石については、第3四半期までは実績値、第4四半期につき推計値、アスファルトについては、見込み値、その他の資材については実績値。
ただし、木材のH22・H23年度実績値には、東日本大震災の影響により、平成23年2月～6月の岩手県、宮城県及び福島県分の出荷量が含まれていない。
・平成25年度の需要量は、見通しの値。

《資料出所》 ○セメント … (社)セメント協会 (セメント需給実績) ○普通鋼鋼材 … (一社)日本鉄鋼連盟 資料
○生コンクリート … 全国生コンクリート工業組合・協同組合連合会 (出荷実績の推移) ○形鋼 … (一社)日本鉄鋼連盟 資料
○骨材 … 経済産業省 (骨材需給表) ○小形棒鋼 … (一社)日本鉄鋼連盟 資料
○砕石 … 経済産業省 (砕石統計年報) ○アスファルト … 石油連盟 (石油アスファルト統計月報)
○木材 … 農林水産省 (製材統計)

図-2 主要建設資材需要量の年度推移

統計

減少し、平成 22 年度まで続いた。

しかし平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災の復興事業が本格化するに伴い、一部の品目は急減に需要量が回復し、翌年度以降はすべての品目において需要量が回復している。

4. 主要建設資材の価格動向

全国各都市平均の主要建設資材価格推移（平成 17 年平均 = 100）を図-3 に示す。

建設需要量は減少しているが、資材価格を見ると平成 17 年度（2005 年）以降は緩やかに上昇を示し、平成 20 年度には鋼材材料が急激に上昇したが、平成 21 年度に下降しその後は、横ばいから緩やかに上昇している。

建設資材物価指数を前年度の全国平均と平成 25 年 6 月を比較すると、建設総合では前年度比 2.4 ポイント上昇の 112.7、建築部門

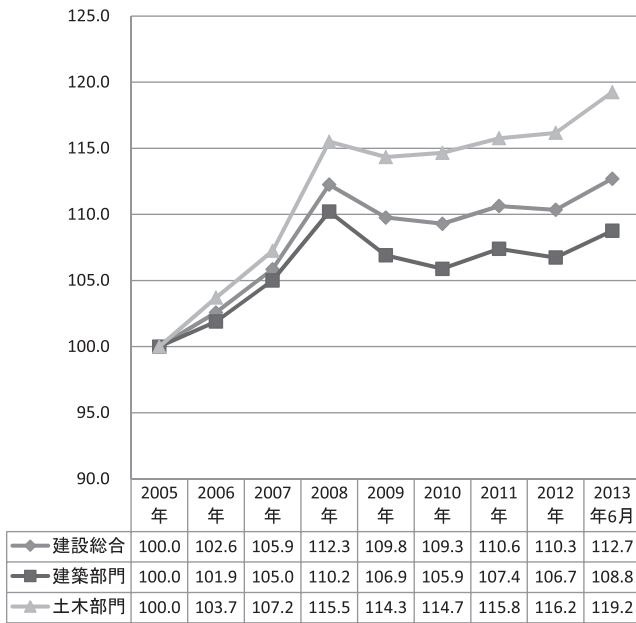


図-3 主要建設資材物価指数の推移（全国）
建設物価調査会資料より

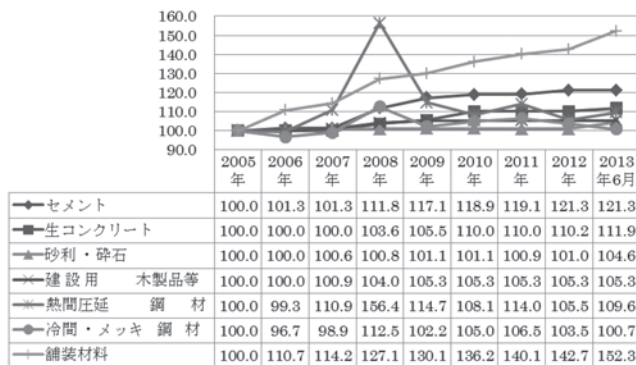


図-4 主要建設資材の物価指数の推移（東京）
建設物価調査会資料より

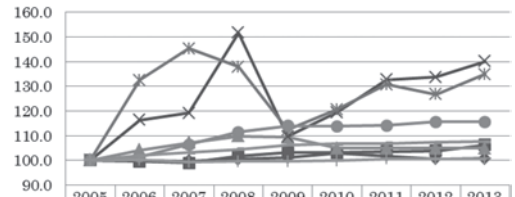


図-5 その他資材の物価指数の推移（東京）

は前年度比 2.1 ポイント上昇の 108.8、土木部門は前年度比 3.0 ポイント上昇の 119.2 であった。

図-4 は、最近の東京都区部の主要建設資材の物価指数の推移を示したものである。

平成 25 年 6 月と前年度平均を比較すると、セメントは、横ばいの 121.3、生コンクリートは、1.7 ポイント上昇の 111.9、砂利・砕石および建設用木製品等は変化無し、熱間圧延鋼材は、4.1 ポイント上昇の 109.6、ポイント冷間・メッキ鋼材は 2.8 ポイント下落の 100.7、舗装材料は 9.6 ポイント上昇の 152.3 であり、全体的には緩やかな上昇傾向にある。

図-5 は、最近の東京都区部のその他資材の物価指数の推移を示したものである。

平成 25 年 6 月と前年度平均を比較すると、物価指数（平成 17 年 = 100）を見ると、電線・光ファイバーは 8.1 ポイント上昇の 134.9、石油製品は 6.5 ポイント上昇の 140.2、繊維製品は 2.5 ポイント上昇の 106.3 と 3 品目は上昇し、プラスチック製品、農産物は 0.1 ~ 0.3 ポイント緩やかに上昇し、一般機械、重電機器、塗料は指数の変化がない。

5. おわりに

建設資材の需要量は、建設投資額の増減に大きく左右されるが、今回は東日本大震災の復興事業が本格化し、全国的に防災対策事業も計画されていることなどから、緩やかな増加が期待されている。

また、資材価格の面においても、震災後一部の資材が大幅に上昇したが、その後は安定し、全体的には緩やかな上昇を示している。

このような背景から、需要量および価格面においても、これまでの長期の減少傾向から緩やかな上昇が期待できるものと思われる。

（文責 小池）